

全金本山労組が3月決戦闘争へ

一人の首切りも許さない! 12年間、不屈に闘う

結成2周年記念 全国総決起集会 闘う48労組団体 205名の代表が参加し成功かちる

二月十四日、仙台市において、全金本山労組全国総決起集会(結成二周年記念)が開催された。全金本山労働組合は、わが動労千葉と兄弟組合としての契りをむすんで、民間組合の中で最も戦闘的に闘いぬくのみならず、とりわけ、「一人の首切りも許さない」という労働者・労働組合の原点をつらぬいて、十二年間にわたる闘いを自力で

苦しい時にこそ、原則をつらぬいて闘う

全金本山労組・八重樫委員長あいさつ

集会は始まる前から熱気があふれていた。全国から四八の労組・団体、二〇五名の代表がかけつけた。主催者あいさつに立った八重樫委員長は、「分離・独立」結成より二年を迎えた。十二年の闘いの地平の上に、ついに本山社長を退陣に追い込んだ。日本労働運動の右傾化・体制内化に抗し、この激動期を、確信をもって闘ってゆきたい。今、敵は全体重をかけて三里塚二期攻撃に出してきた。敵が攻撃に全体重をかけてくる時は、自らの危機をかかえこんでいる時だ。その時にわれわれも全力をあげて闘うことで、展望が決定的に切りひらかれる。われわれは、永年の闘いの中でこのことを知った。苦しい時こそ原則をつらぬいて闘うこと、これ以外にわれわれの未来はない。本二周年を新たな闘いの突破口として皆さんと共に闘っていく」と述べた。闘ってきた者だけが言いうるこのすばらしい決意とあいさつに全体はわれんばかりの拍手でこたえた。

ことごとく粉碎し、勝利してきた。石橋前副委員長と内田前行動隊長のとうとうとした路線は敵公団の攻撃そのものであり、三里塚闘争の基本路線に敵対するものであり、同盟と支援を分断する策動であり絶対に認められない。彼らは「同

三里塚 国鉄を戦場に、八〇年代の勝利へ! 動労千葉・中野書記長が報告

最後に、動労千葉・中野書記長が特別報告に立ち、三里塚を基軸に、国鉄を激烈な戦場として八〇年代中期の軍事大国化・改憲の壮大な階級的激突を大胆に闘おう、と、提起した。

基軸の右翼労働「統一」攻撃をばるかにこえる、公然たる「国鉄版・産報運動」そのものだ。これこそ動労の闘う伝統と階級性を最後に完全に投げすてるものであり、闘う労働者を弾圧・襲撃してまわるといふ恐るべきファシスト労働運動への公然たる転落・居直りである。」「彼らを打倒・一掃する闘い、それが三里塚 国鉄の闘いだ。全ての労働者・人民が三里塚で徹底的に闘い、敵と、それ完全に一体化した裏切り者をもろともに粉碎して、現況に風穴をあけなければならぬ。三・六の全国労働者集会に結集せよ。そして三・二八に向って、全勢力を三里塚へ結集しようではないか。」

話し合い拒否で闘いぬく 三里塚反対同盟・渡辺さん

参加団体代表よりの連帯のあいさつに続いて、三里塚芝山連合空港反対同盟・渡辺千秋さん(横堀部落)の闘志あふれる決意が表明された。「三里塚は、全国の皆さんの激励を受け、今、力強い闘いに入っている。農民は土地を守り育てる事が、生きるという事だ。われわれは十七年という長い闘いの中では、あらゆる困難や裏切り・脱落など何度も何度も経験してきている。しかし、

「三里塚は今激烈な攻防に突入している。さすが反対同盟だ、このぐらいな事でビクともしないで、基本路線をますます堅持して前進し、燃えたとっている。八〇年代は戦国時代、全ゆるものがぶつこわされたり、又は逆に、全く新しい視点や基盤が創造されたりもする。そういう時代だ。労働運動もそのうだ。」敵は、日本の労働運動の解体攻撃を国鉄労働運動破壊の攻撃に焦点をすえてきている。動労「本部」、国労中央の完全屈服 協力を手の内にした敵は、三

全参加者は、本集会の、とりわけ全金本山労組の闘いの決意、三里塚反対同盟の檄、動労千葉の鮮明な勝利への展望と方針提起をお互いに力強く確認し、全金本山労組の三月闘争突入・勝利を全体で誓って、成功裡に終了した。

「三里塚は、全国の皆さんの激励を受け、今、力強い闘いに入っている。農民は土地を守り育てる事が、生きるという事だ。われわれは十七年という長い闘いの中では、あらゆる困難や裏切り・脱落など何度も何度も経験してきている。しかし、

「これは、同盟・J C